

本当の結核蔓延状況を知る為には？世界の結核有病率調査

結核予防会結核研究所

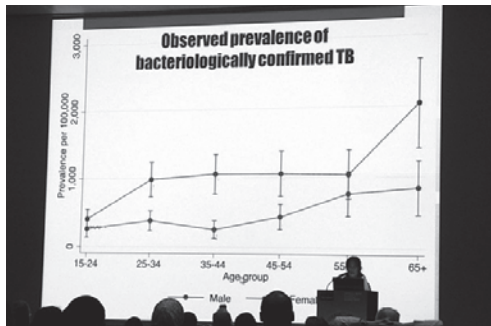
臨床・疫学部疫学情報室 泉 清彦

結核有病率調査に関する経験の共有と今後の発展を目指す為のイベントが、学会シンポジウムを含めて3日間に渡り実施されましたので報告いたします。

結核患者が実際にどの程度いるのか把握することは結核対策における大きな関心事です。特に、患者数の多い結核高蔓延国では正確に実態を把握することにより、現状分析、計画策定、目標設定と達成度の評価等をより的確に実施することが可能となります。しかし、多数の未報告や未診断の結核患者が存在することを考慮すると、結核患者登録率は本当の蔓延状況よりも低いものとなり、2012年には世界で約3百万の結核患者が見逃されていると推定されています。

結核有病率調査は、より精度の高い結核患者数の推

定を可能とし、2007年頃よりアジア及びアフリカの結核高蔓延国において実施されています。約15カ国の調査結果から、実際の菌陽性結核有病率は年間結核患者登録率の2～数倍であることが分かってきました。ミレニアム開発目標の達成を目指して着実な結核患者数の減少も確認されました。その一方で、無症状の塗抹陽性患者や、胸部X線により活動性結核が疑われる塗抹陰性患者等については、その減少速度は鈍化しているとの結果も出ております。数万人を対象とする大規模な同調査からは、結核高リスク集団の特定、結核蔓延の地域差の把握、対策優先度などの重要な知見が得られ、結核高蔓延国の対策に大きく貢献している状況が報告されました。



結核有病率調査シンポジウム



ポスター発表（中央 筆者）